

第24分科会 総合学習

安房における総合的な学習の時間の現状を探る

—とりくみやすい総合学習にするための一方策—

1. 設定理由

これからの知識基盤社会やグローバル社会では、課題発見、解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力などを実社会や実生活で活用できる能力が求められている。そのため、今回改訂された学習指導要領の総合的な学習の時間では、問題解決的な活動が発展的に繰り返される探究的な学習とすること、他者と協同して課題解決する協同的な学習とすることが求められている。しかし、各学校における総合的な学習の時間では、これまでそのねらいが達成されている学校がある一方、インターネット等で調べたことを、そのまま書き写して発表したり、学校行事の準備に総合的な学習の時間が使われたりするなどの例が見られると言われている。

このような現状の中、安房における総合的な学習の時間のとりくみの現状を洗い出し、どのように総合学習に取り組めば、より効果的により成果を上げることができるのかを明らかにしていきたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究のねらい

安房管内の総合的な学習の時間の現状を把握し、過去のデータ等と比較しながら課題を明らかにするとともに、望ましい改善の方向性を考える。

3. 研究内容

(1) 調査の視点

- ①安房管内の教員の総合的な学習の時間に対する意識調査
- ②総合的な学習の時間に対するとりくみの現状と問題点
- ③総合学習のあるべき姿

(2) 調査内容と方法

- ①調査対象 安房管内：51校・教職員数153名
(小学校・36校 中学校・15校 各校3名)
※2006年調査 (抽出43校 教職員数147名)
- ②調査期間：2011年7月15日～7月27日
※2006年度調査 8月25日～9月5日

4. 調査方法

質問紙調査によって、総合的な学習の時間に対する意識ととりくみの現状を調査する。

安房支部

鴨川市立鴨川小学校

大久保美千代